

平成28年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年9月10日

上場会社名 株式会社 テンポスバスターズ
 コード番号 2751 URL <http://www.tenpos.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成27年9月11日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 平野 忍
 (氏名) 毛利 聡

TEL 03-3736-0319

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年4月期第1四半期の連結業績(平成27年5月1日～平成27年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年4月期第1四半期	6,546	33.0	447	△0.2	475	△2.7	261	△4.2
27年4月期第1四半期	4,920	6.6	448	22.4	489	19.6	272	16.8

(注)包括利益 28年4月期第1四半期 298百万円 (△5.6%) 27年4月期第1四半期 315百万円 (17.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年4月期第1四半期	22.09	22.02
27年4月期第1四半期	23.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年4月期第1四半期	9,701	6,458	58.0	475.84
27年4月期	10,191	6,205	53.1	458.50

(参考)自己資本 28年4月期第1四半期 5,630百万円 27年4月期 5,419百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年4月期	—	0.00	—	6.00	6.00
28年4月期	—	—	—	—	—
28年4月期(予想)	—	0.00	—	6.00	6.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年 4月期の連結業績予想(平成27年 5月 1日～平成28年 4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,000	18.0	990	12.1	1,030	15.4	480	8.5	40.72
通期	26,300	11.5	2,000	8.7	2,080	11.0	970	11.3	82.29

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年4月期1Q	14,314,800 株	27年4月期	14,314,800 株
② 期末自己株式数	28年4月期1Q	2,482,860 株	27年4月期	2,494,989 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年4月期1Q	11,821,217 株	27年4月期1Q	11,776,240 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料2ページ「当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループの中心顧客である外食産業におきましては、円安に伴う原材料の高騰、人材獲得の困難化による人手不足の深刻化等の影響もあり、なおも厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと当社におきましては、フードビジネスプロデューサー（以下：FBP）を将来の理想の姿として活動いたしました。

当社の目指すFBPとは、店舗を構えての飲食店向け機器販売にとどまらず、外販営業社員を中心に大手・中小飲食企業への営業訪問等の実施、居抜物件を中心とした不動産物件情報の提供、コストと品質を両立させた内装工事の請負、多様な資金ニーズに応えるためのリース・クレジット取扱、メニュー開発及び販売促進策の提案、開業のための事業計画の立案支援、M&Aの提案及び相談の受付、インターネットを通じての情報とサービスの提供等を実施することにより、飲食店開業と運営を一から包括的にサポートするものであります。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高が65億46百万円（前年同期比33.0%増）、営業利益が4億47百万円（同0.2%減）、経常利益が4億75百万円（同2.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益が2億61百万円となりました。

事業部門別の概況は以下の通りであります。

「物販事業」につきましては、「買いやすい店作り」「売りやすい店作り」「相談しやすい店作り」をテーマに事業に取り組みました。

（買いやすい店作り）

当社ではお客様が買いやすい店舗を作るための施策の一つを88作戦と名付けて取り組んでおります。88作戦とは、当社の物販店舗の存在する地域内で8割以上の認知度となるように積極的に外回りを実施することと、来店されるお客様の8割以上の顔と名前を一致させることが出来るように、お会計時に顔を見ながらお客様の名前を呼ぶ、という取組であります。当第1四半期連結累計期間では、これらの徹底に取り組みました。

この88作戦の結果として、既存店来客数は合計151,993件（前年同期比2.5%増）となりました。また、新規会員登録数は、15,403件となり、当社にご登録頂いている会員数は合計で254,189件（平成27年7月末）となっております。

また、朝礼前に店長が自店の売場の見回りを必ず実施し、予約札の確認をすることで、期限切れの予約札が貼ったままになることを防ぎ、見込フォロー時にその予約商品についての確認を実施することで予約商品の販売ロス削減につなげることが出来ました。特にリサイクル品は1点ものであるため、予約管理の徹底による販売ロス削減の効果は大きく、厨房機器のリサイクル品売上は、前年同期比3.9%増と堅調に推移いたしました。

（売りやすい店作り）

当社ではお客様に販売しやすい店舗を作るために、新たに保守メンテナンスの販売を開始いたしました。初期段階の現在では冷蔵機器のみの取り扱いですが、新品、リサイクル品を問わず保守メンテナンスを付与して販売することで、当社の商品をより安心してお使い頂けるようになりました。保守メンテナンスは平成27年7月末時点で、423件のご契約を頂いております。

また、当社会員データより、前期の各店舗においての売上高トップ100、来店回数トップ100を抽出し、それらを当社の重要顧客と位置づけ営業活動を実施いたしました。その中で、これまでメールアドレスが未登録であったお客様からメールアドレスを頂くことが出来、毎月実施しているメルマガ配信による来店顧客増加につなげることが出来ました。

（相談しやすい店作り）

当社では飲食店開業及び新規出店のための資金相談として、日本政策金融公庫セミナーを当社旗艦店舗である新宿店にて定期的に開催しております。これを全国の店舗でも実施いたしました。具体的には、札幌・仙台・埼玉・千葉・名古屋・大阪・広島・福岡で開催し、出店の際の資金調達のお手伝いを実施していることで、「開業から退店まで相談できるテンポス」として認知度を高めることが出来ました。

上記の通り、物販事業としての感じの良い接客、商品効率の追求、新商品の開発等のみでなく、FBPとして相談に乗れるテンポスバスターズを目指して活動しております。

さらに、これらを実践する場を増やすと言う意味で、新規出店も実施しております。今期では現在までに長崎・高崎・神戸三宮・盛岡の4店舗をオープンいたしました。新規出店した店舗は300坪程度の小型店ですが、オープンから3か月後には、単月黒字を達成しております。

また、前期より連結子会社化したキッチンテクノ株式会社におきましては、販売する商品の幅を厨房機器以外の食器調理道具類にまで拡大した効果に加え、当社との共同受注の中で、同社の強みである専門的な厨房設計技術を活かすことが出来、それにより双方がこれまで受注出来ていなかった顧客開拓に成功いたしました。

これらにより物販事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は34億52百万円（前年同期比30.3%増）、営業利益は2億70百万円（同8.1%増）となっております。

「情報・サービス事業」につきましては、「人材事業の強化」「飲食店専用高性能汎用機POSシステムの販売」「Web通販の強化」に注力いたしました。

（人材事業の強化）

飲食店の教育支援としてテンポス飲食道場の開催及び人材採用支援としてテンポスジョブの獲得に力を入れました。テンポス飲食道場は名古屋・熊本・新潟・神奈川・大阪・福岡の6回を実施いたしました。該当地域の飲食企業の店長クラスの方に多数ご参加を頂き、過去累計で700名を超える参加となっております。テンポスジョブにおきましては、期間限定のキャンペーンを開催し毎月100社以上の新規登録を頂いております。

（飲食店専用高性能汎用機POSシステムの販売）

当社子会社の株式会社テンポス情報館におきましては、新商品であるiPadを活用した飲食店専用高性能汎用機POSシステム【TenposAIR】の販売体制構築のために、モニター販売を実施いたしました。これにより販売・サポート・メンテナンス体制の検証と構築を行うことができました。第2四半期からは全国での本格販売を開始いたします。【TenposAIR】は居酒屋・焼肉・中華等のメニュー運用が複雑な業態でも導入可能な高性能汎用機POSシステムであり、これまで導入が難しかった業態への販売促進を強化し、今期400セットの販売を予定しております。

（Web通販の強化）

当社子会社の株式会社テンポスドットコムにおきましては、前期リニューアルした自社サイトの新規機能の活用、Webページ上での探しやすさの改善、カテゴリの再編成、キーワードや商品詳細のページ改築を行い、これまで以上にお客様がご利用頂きやすい通販サイトの構築に注力いたしました。

それにより、同社の売上は5月前年同期比29%増、6月同75%増、7月同53%増と大幅に改善いたしました。

これらにより情報・サービス事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は10億5百万円（前年同月比8.6%増）、営業利益は77百万円（同125.9%増）となっております。

「飲食事業」につきましては、「お客様に喜んでいただき、お値打ちな商品の提供・感じの良いサービス・楽しく快適な空間を楽しんでいただくこと」を実現させるために、「販売促進」「商品開発」「新規出店」に取り組んでまいりました。

また、従業員が働きやすい職場づくりの一環として、アルバイト・パート従業員を対象に各店舗の業績に連動して支給する「報奨金制度」を継続的に取り入れ、店舗全体の士気向上への動機付けについて積極的に取り組みました。

<販売促進>

販売促進におきましては、推奨販売メニューとして各種フェア（リブアイフェア、父の日フェア等）の提供、土産販売品としてピーカンナッツの店頭販売などを実施いたしました。その一方で、「エンターテインメントステアキレストラン」を目指して、グリル体験や演奏会の実施、誕生日祝・結婚祝・還暦祝などの限定メニューを提供し、「ハレの日」需要としての利用動機を促進する施策に取り組みました。

<商品開発>

商品開発におきましては、グランドメニューの変更、リブアイフェア・父の日フェア用のメニュー開発、サラダバーのメニュー改善を実施いたしました。その上で、新メニューに変更した際に、次回のメニュー開発等のための情報収集として、お客様の声を積極的に集める活動を継続しております。

<新規出店>

株式会社あさくまが直営店として川越店（埼玉県）、栄店（愛知県）、FC店として岡山大元店（岡山県）、けやきウォーク前橋店（群馬県）の計4店舗を新規出店、株式会社きよっぱち総本店が、直営店として房州きよっぱち（千葉県）の計1店舗を新規出店、株式会社あさくまサクセッションがファーマーズガーデン大泉学園店（東京都）の計1店舗を新規出店、インドネシア料理レストラン4店舗（東京都、埼玉県、神奈川県）、インドネシア小皿居酒屋（東京都）1店舗の計5店舗を事業譲受し、当社グループの飲食事業は当第1四半期連結累計期間末時点における総店舗数は86店舗（FC店を含む）となりました。

これらにより飲食事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は20億89百万円（同55.1%増）、営業利益は1億17百万円（同32.3%減）となっております。なお、飲食事業の減益の要因は、株式会社あさくまサクセッションがM&Aを行った業態の一部で、立て直しのための投資および償却が先行しているためであります。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は97億1百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億89百万円減少しました。その内容は、以下のとおりであります。

（流動資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は64億96百万円となり、前連結会計年度末に比べて9億65百万円減少いたしました。この主因は現金及び預金が6億54百万円、受取手形及び売掛金が2億30百万円減少したことによります。

（固定資産）

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は32億5百万円となり、前連結会計年度末に比べて4億75百万円増加いたしました。この主因は建物及び構築物（純額）で2億84百万円、投資有価証券で1億7百万円、敷金及び保証金で71百万円増加したことによります。

（流動負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高30億79百万円となり、前連結会計年度末に比べて7億26百万円減少いたしました。この主因は未払法人税等で4億55百万円、支払手形及び買掛金で87百万円の減少があったことによります。

（固定負債）

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は1億64百万円となり、前連結会計年度末に比べて16百万円減少いたしました。この主因は退職給付に係る負債が11百万円減少したことによります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2億52百万円増加し、64億58百万円となりました。これは、利益剰余金で1億90百万円、非支配株主持分で37百万円増加したことによります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期累計期間及び通期の連結業績予想に関しましては、売上、利益とも概ね計画どおり推移しており、平成27年6月11日発表の予想数値の修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離会計基準」という。)
等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,463	2,809
受取手形及び売掛金	1,477	1,247
有価証券	60	-
たな卸資産	2,200	2,220
繰延税金資産	128	65
その他	165	170
貸倒引当金	△35	△16
流動資産合計	7,461	6,496
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	799	1,084
機械装置及び運搬具(純額)	26	42
土地	91	91
その他(純額)	285	201
有形固定資産合計	1,203	1,420
無形固定資産		
のれん	231	286
その他	48	52
無形固定資産合計	280	339
投資その他の資産		
投資有価証券	165	272
関係会社株式	256	276
長期貸付金	24	38
敷金及び保証金	724	795
繰延税金資産	45	48
その他	83	84
貸倒引当金	△53	△71
投資その他の資産合計	1,246	1,445
固定資産合計	2,729	3,205
資産合計	10,191	9,701
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,830	1,743
未払法人税等	597	142
株主優待引当金	37	33
賞与引当金	223	161
製品保証引当金	16	23
その他	1,101	974
流動負債合計	3,805	3,079
固定負債		
退職給付に係る負債	76	65
その他	103	98
固定負債合計	180	164
負債合計	3,985	3,243

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	509	509
資本剰余金	495	505
利益剰余金	5,245	5,436
自己株式	△832	△823
株主資本合計	5,417	5,627
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	2
その他の包括利益累計額合計	1	2
新株予約権	13	18
非支配株主持分	772	810
純資産合計	6,205	6,458
負債純資産合計	10,191	9,701

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年7月31日)
売上高	4,920	6,546
売上原価	2,840	3,799
売上総利益	2,079	2,747
販売費及び一般管理費	1,630	2,300
営業利益	448	447
営業外収益		
受取利息	0	1
貸倒引当金戻入額	0	-
持分法による投資利益	37	20
その他	6	10
営業外収益合計	45	32
営業外費用		
支払利息	0	0
貸倒引当金繰入額	-	1
その他	3	2
営業外費用合計	4	4
経常利益	489	475
特別利益		
関係会社株式売却益	-	3
固定資産売却益	-	0
負ののれん発生益	44	-
特別利益合計	44	3
特別損失		
持分変動損失	20	-
固定資産除却損	-	0
特別損失合計	20	0
税金等調整前四半期純利益	513	479
法人税、住民税及び事業税	148	122
法人税等調整額	49	59
法人税等合計	198	182
四半期純利益	315	296
非支配株主に帰属する四半期純利益	42	35
親会社株主に帰属する四半期純利益	272	261

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年7月31日)
四半期純利益	315	296
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	1
その他の包括利益合計	0	1
四半期包括利益	315	298
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	272	262
非支配株主に係る四半期包括利益	43	35

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年5月1日至平成26年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 上額(注)
	物販事業	情報・サービス 事業	飲食事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	2,648	924	1,346	4,920	-	4,920
セグメント間の内部 売上高又は振替高	153	35	3	192	△192	-
計	2,801	960	1,350	5,113	△192	4,920
セグメント利益	249	34	174	458	△10	448

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。なお調整額△10百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用7百万等が含まれております。全社費用には主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門に係る費用であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「物販事業」セグメントにおいて、キッチンテクノ株式会社の全株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、負ののれん発生益を計上しています。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては44百万円です。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年5月1日至平成27年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 上額(注)
	物販事業	情報・サービス 事業	飲食事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	3,452	1,005	2,089	6,546	-	6,546
セグメント間の内部 売上高又は振替高	173	80	10	264	△264	-
計	3,625	1,086	2,099	6,811	△264	6,546
セグメント利益	270	77	117	466	△18	447

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。なお調整額△18百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用8百万等が含まれております。全社費用には主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門に係る費用であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。